

『海東諸国記』データベースの作成

川勝賢亮：九州大学文学部

『海東諸国記』は、1471年(日本の文明3年)朝鮮の申叔舟が成宗の命をうけて編纂した書物であり、日本と琉球の地理・国情や朝鮮との関係等が記されている。大きく、「海東諸国総図」などの諸地図と「日本国紀」「琉球国紀」「朝聘応接記」に分かれる。附録として、畠山殿副官人良心書契と琉球国の習俗に関する記述がある。

「日本国紀」は、「天皇代序」「国王代序」「国俗」「道路里数」「八道六十六州」に分かれる。とくに「八道六十六州」は、各国の概要とともに朝鮮への通交者の解説を記しており、室町時代日朝関係史の基本史料の一つとなっている。ただし、実在しない偽使も多く見られ、使用する際には史料批判が必要である。

古版本は、東京大学史料編纂所本(曲直瀬家旧蔵本)、韓国国史編纂委員会本(宗家旧蔵本)、内閣文庫本(佐伯毛利家旧蔵本)、南波松太郎本などが知られている。対馬宗家旧蔵本は、1933年、朝鮮史編修会から「朝鮮史料叢刊第二」として景印刊行された。東京大学史料編纂所本は、1991年、岩波文庫として刊行され、写真と読み下し文が収録された。

本研究班は、「朝鮮史料叢刊第二」の景印版『海東諸国記』を底本として全文テキストデータベースを作成した。東京大学史料編纂所本と比較すると、文字に若干の異同がある。